

第4回 既設ダム有効活用アドバイザー会議の開催結果について

会議日時:平成18年11月10日(金)15:00～17:00

会議場所:京都全日空ホテル(2階・醍醐の間)

出席者 :既設ダム有効活用アドバイザー(座長筆頭・以下五十音順)

立命館大学理工学部	中川 教授(座長)
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部	岡部 教授
(独)土木研究所企画部	柏井 研究企画監
京都大学工学部	角 助教授
神戸大学工学部	道奥 教授
(独)土木研究所水工研究グループ	山口 上席研究員

【議事主旨(指摘事項等)】

1. 既設長安口ダムの治水対策に関する検討についての意見

・オリフィスゲート新設(2門案、3門案)について、堤体周辺の応力解析、経済性、施工性(既往事例)など総合的に判断すると3門案が妥当との方向性が示された。しかし、具体の設計に向けては、今後も継続的に不確定要素を考慮した詳細検討を進める必要がある。

2. 既設長安口ダムの堆砂対策に関する検討についての意見

・土砂動態モデルでの将来計画との整合について、段階的な流量を含めて、さらに検討していくことが望ましい。

・長安口ダム下流への置土については、重要箇所を抽出し、置土量・置土箇所・置土方法・置土粒径などをモニタリング結果により、適宜見直していく必要がある。

・継続的に、恒久的対策の検討も進めることが望ましい。

3. 結論

・治水対策:

オリフィスゲート新設について、3門案での方向性が示されたが、今後も継続的に不確定要素を考慮した詳細検討を進める必要がある。

・堆砂対策:

長安口ダム下流への置土について、重要箇所を抽出し、置土量・置土箇所・置土方法・置土粒径などをモニタリング結果により、適宜見直していくことで、置土については可能との方向性が示された。

上記アドバイスをいただき、今回会議をもって、平成17年11月より開催していた既設ダム有効活用アドバイザー会議を解散した。

平成18年11月16日(木)
国土交通省四国地方整備局
那賀川河川事務所
徳島県 県土整備部

問合せ先

国土交通省四国地方整備局 那賀川河川事務所
電話 (0884)22 - 6461

副所長 藤岡 康男 内線(204)

調査課長 野本 粹浩 内線(351)

徳島県 県土整備部 流域整備企画課
電話(088)621 - 2636

流域整備企画課 主幹 松野 幸博